

編集後記

RIST NEWS第63号をお届けします。

面白く役に立つ話題を提供するべく、毎回テーマを探すのに苦労していますが、今回は、国立研究開発法人科学技術振興機構革新的研究開発推進プログラム (ImPACT) のプログラム・マネージャーである藤田玲子氏による「PHITSコードを活用した核変換による“高レベル放射性廃棄物の低減・資源化”」を、また幣機構のメンバによる「EUのHPCアプリケーション・ソフトウェア戦略に関する調査報告」を掲載しました。また、東京大学サステナビリティ学連携研究講座の住特任教授に「時代精神としての持続可能性」と題する巻頭言を頂きました。

ふとこのRIST NEWSを読んで頂いている方はどんな方であろうかと思いを馳せます。

RISTはその前身のNEDACから数えると今年で36年目を迎えているわけですが、その方々は、この36年間に何らかのお付き合いを頂いた方、激動の科学技術計算の歴史を体験されて来た方であるはずです。

NEDACが立ちあがった1980年代の日本

はまさにJapan as No.1、日本の計算機メーカーは半導体と通信をコア技術として世界を席卷していた時代です。バブルが来てそれが弾けて、失われた20年の長い暗黒の時代に入ったと言われていています。これからはどのような未来が待っているのでしょうか。

プロメテウスは、死すべき運命にある人間が自らの運命を予見できないようにし、その代わりに希望を与えたと言われていません。今我々は、希望だけではなく、シミュレーションという未来を少しだけ予測する能力を、すなわち計算機を手に入れました。特に小誌を読まれている方々にとって、計算機を正しく使って行くことは、人類の未来のためにも大変重要な役目になるのではないのでしょうか。

RIST NEWSは本号から年1回の発行となります。

発行回数は少なくなりますが、皆様にご満足頂ける情報誌を目指したいと考えておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。(峯尾)